

## 学校部活動から地域クラブ活動への移行モデルケース

### 4つのモデルケース

<b>学校丸ごと移行型（梓川中学校）</b>	
ア 受け皿	梓川少年スポーツ教室（10種目）
イ 運営主体	梓川少年スポーツ教室
ウ 選定理由	<u>団体が受入れに前向きで、組織としても成立。梓川中学校の生徒の多くが、既に教室に参加</u>
エ 指導者	地域の指導者
<b>複数学校の特定競技移行型（軟式野球）</b>	
ア 受け皿	既に行われている合同部活動ケースをベースにしながら、野球部がない学校も参加できるかたちのクラブチーム
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	<u>野球部のある中学校は、単独チームの編成が困難な学校が多数あり、既に合同チームで大会出場するケースあり</u>
エ 指導者	教員 + 地域の指導者
オ その他	1月中旬に各中学校の野球部顧問に説明、意見交換を実施。いただいた意見を参考に、新3年生引退後の6月末以降の体制について検討
<b>少数部活動種目移行型（バドミントン）</b> <small>少数部活動とは、現在、ほとんどの学校に存在しない部活動を指す</small>	
ア 受け皿	バドミントンクラブ
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	<u>市内中学校でバドミントン部がある学校は4校（女鳥羽、安曇、大野川、奈川）のみだが、多くの高校ではバドミントン部があり、部員数も多く、中学生の潜在的ニーズを想定</u>
エ 指導者	地域の指導者
オ その他	休日に北部・南部の体育館で経験者及び初心者を対象に「バドミントン教室（仮）」（50回程度/年）を4月中旬から開始できるよう、現在調整中小学5・6年生では、平日・休日ともにやりたい種目の上位（アンケート結果から）
<b>部活動指導員起点型（波田中合唱部、高網中女子バスケット部）</b>	
ア 受け皿	部活動指導員が所属する団体等
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	<u>すでに部活動指導員による指導を受けている。</u> <u>地域移行を前提とした意欲的な新規指導者</u>
エ 指導者	地域の指導